

南琉球八重山語石垣島白保方言の記述研究

占部, 由子

<https://hdl.handle.net/2324/4784378>

出版情報 : 九州大学, 2021, 博士 (文学), 課程博士
バージョン :
権利関係 :

氏 名 : 占部 由子

論 文 名 : 南琉球八重山語石垣島白保方言の記述研究

区 分 : 甲

論 文 内 容 の 要 旨

本論文は南琉球八重山語石垣島白保方言（以下、白保方言）の談話資料を主なデータとした文法記述研究である。白保方言は、沖縄県石垣島宇白保集落で話されている伝統的な方言である。言語の系統として、白保方言は日琉語族のなかの琉球諸語に属し、琉球諸語の中でも最南部で話されている南琉球八重山語の1変種である。

本論文は文法記述、談話資料、語彙集の3つから構成される。文法記述は、白保方言の音韻・形態・統語的な現象について、体系的に分析し記述するものである。文法記述の構成を表1にまとめる。談話資料は、文法記述で示された分析の妥当性を他の研究者が検証することや、今後新たな研究課題が生じたときのためのデータとして役立つ。語彙集は、文法記述や談話資料で出現した祭事などの語彙を理解することに加え、付された例文をもとにしてデータベースとすることが可能である。

表1. 文法記述の構成

章 番 号	章タイトル	内容 (節タイトル)
1	言語の概要	地理, 系統, 先行研究, 言語の特徴, データと例文提示法
2	音韻論	音素, 音節構造, モーラ, 形態音韻規則, アクセント
3	記述の諸単位	語, 接語, 接辞の定義, 語類と機能類, 形態法, 文法関係
4	名詞形態論	一般名詞の形態論, 人称代名詞, 再帰代名詞, 数詞
5	名詞句	従属部 (連体詞, 属格名詞句, 関係節), 主要部 (形式名詞)
6	動詞形態論	語幹, 接辞 (派生接辞, 屈折接辞), 語幹の変化
7	助詞類	格助詞, とりたて助詞, 情報構造助詞, 接続助詞
8	機能類	ものの性質を表す語, 指示詞, 疑問詞
9	構文論	結合化の操作, 述語の構造, 極性, 文タイプ
10	複文	等位接続, 従属節, 節連鎖, 言いさし
11	意味機能の記述	敬語, 有生性, テンス・アスペクト, ムード, 情報構造

本論文の貢献は以下の2点である。まず、談話資料を主なデータとして扱っている点が挙げら

れる。これまで琉球諸語の記述研究では、文法の全容を記述した記述文法書が 12 編、各文法形態素の主な機能を記述し文法の骨子を明らかにする文法概説が 11 編編纂されてきた。これらの記述文法書・文法概説は全てコロナウイルス感染症拡大以前の成果であり、その多くは話者と直接会い質問してデータを収集する面接調査が主な調査方法であった。それに対し、本論文は一部面接調査のデータを用いつつも、主に約 2 時間分の談話データをもとにして分析を行っている。これにより、媒介言語（日本語）の影響という面接調査に伴う問題を回避することができる。さらに、今後コロナウイルスの影響下や話者がいない状況で琉球諸語の記述研究を行う 1 つのケース・スタディを提示している。なお、データの欠落により分析を行えない箇所については、これまでの琉球諸語の記述研究をもとにして、関与する変数と行うべき調査を述べている。これは、単に筆者自身の今後の課題を述べるだけでなく、今後琉球諸語の調査を行う人にとって、これまでの研究史と個々の現象に関与する変数を把握する上でも役立つ。

次に、本論文の成果は記述研究にとどまらず、言語変化や歴史言語学的な研究にも寄与できる。八重山語内部の系統的な議論において、白保方言は地理的に近い集落の方言よりも、50 キロほど南に位置する離島の波照間島方言と言語体系が近いという点で特異な位置を占める。これは、250 年ほど前に白保集落に波照間島からの 300 人規模の移住があったことによる。このことから、本論文の研究成果と波照間島方言の研究成果を比較することにより、通時的な変化を追う言語変化や歴史言語学の研究にも貢献する事ができる。